

■ソーシャル・キャピタルが豊かな地域で生きる

(特非) 参加型システム研究所 研究フォーラム

「市民の参加による共生社会を「非営利・協同」のネットワークでつくる」報告

2017年11月27日

公益財団法人かながわ生き活き市民基金 副理事長 萩原 妙子

萩原 きょうのフォーラムの開催趣旨に沿いまして、生き活き市民基金の活動から見えた、ソーシャル・キャピタルがなぜ必要か、その事例をお話してみたいと思っています。

●生き活き市民基金の紹介

生き活き市民基金の紹介ですが、2003年から生活クラブの組合員は、月100円の福祉たすけあい基金に取り組んできました。今、1万1,000人が参加をされていまして、先ほどの坪郷先生の話を聞くと、そういう寄付こそ、ソーシャル・キャピタルなんだと思いました。こんな時代なので、社会の課題は、多様化していて、制度や市場サービスだけでは、ニーズをカバーすることはできません。私たち市民が、たすけあいとして取り組む領域は、すごく広がっています。市民のたすけあい活動や市民が応援する力を、さらに強くしようということで、2013年に公益財団法人を取得いたしました。

私たちは中間支援機能を目指しています。地域にはたくさんのソーシャル・キャピタル、市民活動がありますが、日々の活動に忙しくて、資金循環や、横のつながりづくり、地域への広報、政策提案は、なかなか難しい状況です。私たちは、助成をするだけでなく、地域の団体と団体、団体と市民、市民と市民をつな



ぐフォーラムや、研究会を通じて、市民活動の中間支援機能を、果たしていいかと思います。

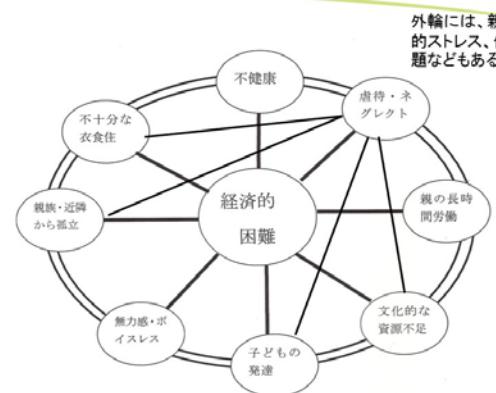
設立以来、4年半が経つのですが、これまで102の団体に助成をしてきました。こうした中で、徐々に子どもや若者を支援する団体からの助成申請が多くなってきています。フードバンクや子ども食堂などの、子どもの困難な生活を支援する活動団体も増えてきました。

●子どもの貧困

政府による6人に1人の子どもが相対的貧困にあるとの発表は衝撃的でしたが、私たちも、その社会的課題に気付いて、子ども、若者の貧困に立ち向かう市民活動を支援するフォーラムを2016年に開催しました。この図は、基調講演をされた山野良一さんの資料です。経済的貧困に陥ると、周りにある病気とか孤立とか、ネグレクトとか、親の長時間労働とか、さまざまな困難が全部つながってくる、という図です。ところが、そのフォーラムのときに最初に発言された方が、こうおっしゃいました。「でもね、私の周りに、そんな子ども見たことありません。」でも、本当にそうでしょうかと思います。国民生活基礎調査では、2015年に貧困状態にある世帯は15.6パーセントといっています。この年の貧困ラインは年収122万円でした。このお金があれば、人が生活できますよというお金ですね。本当

にそうなんでしょうか。特にシングルマザー世帯は、50パーセント以上が、貧困状態にあるといいます。女性は貧困に陥りやすく、本当にひとごとではないなあとと思いました。

子どもの貧困の構造 「貧困は貧困だけに終わらない」



●子どもの貧困と支援の活動事例

ここから、逗子市・相模原市・港北区の3つの地域フォーラムで報告された事例を紹介していきたいと思います。貧困問題に対し、

いて、民生委員が始めました。公共の場を使っていますが、今地域から、さまざまな食支援とか、お金の支援もきていると聞いています。二つめの写真は、「あいおいみんなの食堂」です。生活クラブ相模原センターの組合員活動スペースを使って、組合員が始めました。生活クラブの生産者のお豆腐や、野菜の提供もあり、地域資源が使われています。右の食堂は、「ほんそん子ども食堂」です。茅ヶ崎で高齢者、子育てママの居場所をやっている、「さいとうさんち」のメンバーが、教会を借りてやっています。「さいとうさんち」という活動が基盤となって、次は子どものことだと、そういう循環こそが大事だと思いました。子ども食堂というと、あそこは貧困者向けだから行く人はいないんじゃないの？行けないんじゃないの？という声もありますが、子どもには、信頼できる大人がいる居場所があることが、大事だと思っています。こうしたと

事例 「食べる」でつながるソーシャルキャピタル…子ども食堂・地域の食堂
子ども食堂は地域の食堂・地域の居場所に(食だけでなく情報のやりとり)

★「すし子ども0円食堂」
朝食・夕食を食べられない日が結構ある。たまにある子が1/3。民生委員が一步前に出た。
ならば私たちが出来ることをやる。「一人で食べずにみんなで食べよう」月2回

ノーマルキャピタル
市民をつなぐ

★「あいおい」みんなの食堂

生活クラブ相模原センターの調理室・組合員スペースを使って、地域の子どもたち・ひとり暮らし高齢者、ママと子どもが参加

★「ほんそん子ども食堂」「いただきます」

昼間のさいとうさんちには子ども・若者が来られないことに気づき、教会の集会室・厨房を借りて実施。月1回。

自立・自尊・人権を尊重する
命を大切にした
生き生きとした
市民基金

私たちは何ができるのかということです。まず、子ども食堂、地域食堂です。「すし子ども0円食堂」です。朝ご飯とか夕ご飯、食べられない日があるんだよという子どもの声を聞

ころからの基金の申請が、もっときてほしいと思っています。

次は学習支援です。教育を受けられないと、次の職を得ることが難しくなるなど、人生に

事例 学びでつながるソーシャルキャピタル

☆自信を育む学習支援
CoCoLoの会
不登校の子どもたちへの学習支援、ボランティアの協力で塾に行けない子どもの学びの支援、夏休みの朝ご飯付きジオ体操付き宿題サポート。
火・土は学習塾、月曜日は無科学習支援に。



☆無科学習塾
相模原みのり塾
有科学習塾へ通えない子どものサポート、子どもたちの学びを助けたい、可哀想ではなく、未来を担う子どもたちへの投資として。ボランティア講師の温かい気持ちで成立。月-金はIT系企業で働き、日曜日に活動。公的な場所を活用



小布施東穂子さん、さがみにもある子どもの新しい貧困フォーラム資料より

キャピタルと
市民をつなぐ

「無科学習塾」ってどんなイメージ？

有科学習塾の
月謝が
いい感じ？

親御にお給料
払えないから
ボランティアでや
ってるの？

新しい家庭に
塾代を助成
できれば解決！

実は「無科学習塾」にしかないものがある

大きな不利益が及びます。困窮者自立支援制度には、任意事業に学習支援がありますが、生保の方とかに限定されています。そこに至らないグレーゾーンの子どもたちへの学習支援は、さらに重要だと思っています。ここでは、学生さんやシニアの方のボランティアでやられています。学習の重要性については、若者の未来づくりを応援するフォーラムの基調講演で鈴木和樹さんが示された図ですが、親の収入が少ないと教育不足になるし、進学試験で不利になる。その結果、安定した仕事に就けない。すると、子ども世代にも貧困が連鎖するわけです。貧富の連鎖、これ貧困の連鎖じゃないの？と最初は思ったんですが、貧しさは連鎖する、同時に豊かさも連鎖し、社会の格差は、ますます広がっていくということです。

座間で大きな事件がありました。日本は若者の自殺が飛び抜けて多いとデータで出ています。義務教育を過ぎると、子どもたちを支援する社会的資源が本当に少ないんです。今、近隣とのつながりが希薄ですので、自分はこうなりたいという大人モデルがなく、触れ合う経験も少なく、コミュニケーションも少な

い。居場所がないので、コンビニとかゲームセンターにいると、警官に声をかけられるので、SNSに飛び付くというようなことがあります。居場所のないことが問題です。先日も財団に、そういう若者に居場所をつくりたいという申請の相談がありました。

●若者を支援する活動

次が、若者を支援するソーシャル・キャピタルです。シェアハウスと共同の働き場、若者と地域をつなぐコーディネーターの3例を、紹介したいと思います。路上生活者自立支援を行っている神奈川県生活サポートに、ネットカフェで生活をしている若者が訪ねてきました。孤独にせずに、暮らせる場所があれば自立できると、若者のためのシェアハウスが開設されました。

次は、生きづらさを抱える若者と、シニアのサポートが協働する、引き払い事業の「はっぴい&キャリー」です。お互いの違いを理解して、協同で働くことができる、ワーカーズ・コレクティブの働き方の良さを生かしていく、これからワーカーズの新しいあり方かなと思って見ています。

若者を支援するソーシャルキャピタル





☆シェアハウス 神奈川県生活サポート
「いわゆるネットカフェ難民」のように仕事はあるが住まいがない、住まいがあれば自分で生活できる若者には孤独にならず暮らせる場所が必要

写真 石上恵子さん

☆共同の働き場

経験の少ない生きづらさを抱える若者とシニアのサポートの引き払い事業とおもしろ倉庫

はっぴい＆キャリー
写真 伊佐豊明さん 若者の未来づくりを応援するフォーラムより

☆若者と地域をつなぐコーディネーター

定時制高校を出る若者 1800人のうち進路未決走者が700人、正規雇用600人(離職率が高い)



神奈川県内定時制高校 生徒卒業時の状況
毎年約1,800人が卒業

進路未決定
n=700人
正規雇用
n=600人
離職
n=500人

進路未決定
n=1,200人
正規雇用
n=600人
離職
n=500人

写真 永岡鉄平さんフェアスタートサポート エラベルカタログより

生き活き市民基金

キャピタルと
市民をつなぐ

三つ目は、フェアスタートサポートの活動です。定時制高校を出る若者は、その先が決まってないとか、離職する人が多いんですね。そこをつなぐ費用を市民基金の「エラベル」という事業指定助成プログラムで集めました。地域の若者と就労の場をつないでいます。こうした活動は、お金(事業)にならないし、みんなで応援していかないといけません。ひとりの人が、全部を負うわけにはいきません。皆さんの参加と手助けが、必要だということです。

● フードバンクの活動

フードバンクについてですが、生き活き市民基金が設置した「社会的連帯経済を促進する研究会」では、神奈川の非営利・協同の枠組みで、フードバンクを検討しました。その結果、初めて県内のユーコープ、生活クラブ、パルシステム、生協と労働団体、JA、市民団体という、大きな枠組みの連携が成立して、2018年4月を目指し、フードバンク設立の準備が進められています。これは、県レベルをカバーする中間支援組織としてのフードバンクですので、小さい地域のフードバンクにも、食品を提供していくと思っています。

まだ食べられるのに、家庭や企業から廃棄される食品は年約600万トン。一方で、食の確保が不自由な方もいらっしゃる。そこをつなぎ、循環させる仕組みです。でも、フードバンクには、食品ロスだけじゃなく、地域の分かち合い、支え合いの場づくりと地域循環をつくっていきたいという、大きな目的があります。

貧困・困窮は見えにくいんですが存在します。食料支援は、見えにくいところをつなぐ道具です。緊急支援としては、食べられない状況から脱却しなければいけないし、福祉制度や就労、住まいの確保につなぐことが重要です。それだけではなく、貧困からの脱却を進めるためには地域のNPOとかさまざまな手助けや配慮につないでいく。それから地域資源の子ども食堂等につなぐ、つながりづくりが、一緒に行われなければならないということで、市民の出番は大きいと思います。

● フードバンクの流れ

流れを説明します。物流倉庫を拠点に全ての物が集まっています。そこから生協のセンターとかの第2の物流拠点にいきます。そこから第3の分配拠点、市役所ですか、福祉

キャピタルと
市民をつなぐ

事例 食のセーフティネットを支援する県レベルの中間支援組織が必要
分断社会から分かち合い社会へ、食のセーフティネット

・グローバルに拡がる新自由主義経済の論理は、社会に経済格差を広げ、労働に不安定・低賃金の非正規雇用を増やし、人ひとを分断

・県内のソーシャルセクターが社会経済連帯をつくり、分断に対抗し、分かち合い社会へ、ソーシャルキャピタルとしてのフードバンクにチャレンジ 食のセーフティネット

フードバンク中間機能イメージ図

```

graph LR
    A[食品寄附者  
個人  
フードドライブ  
悩む中古が相  
食品メーカー  
農家  
スーパー・小売店] --> B["(仮称)  
フードバンク  
かながわ"]
    B --> C[支機關  
行政・社協  
福祉施設  
団体等支援  
等]
    C --> D[各機関と連携し  
食料の配達・活用]
    D --> E[食料  
希望者]
    E --> F[生活などの相談]
    F --> G[食料の供給]
    G --> B
    
```

(詳細)

・県内生協（ユーコープ・生活クラブ・パルシステム）、労働団体（労福協・かながわ労働者ボランティアネット・全労済・労金）、Y M C A、J A、生協県連、システム研、生き活き市民基金によるコンソーシアム

・目的

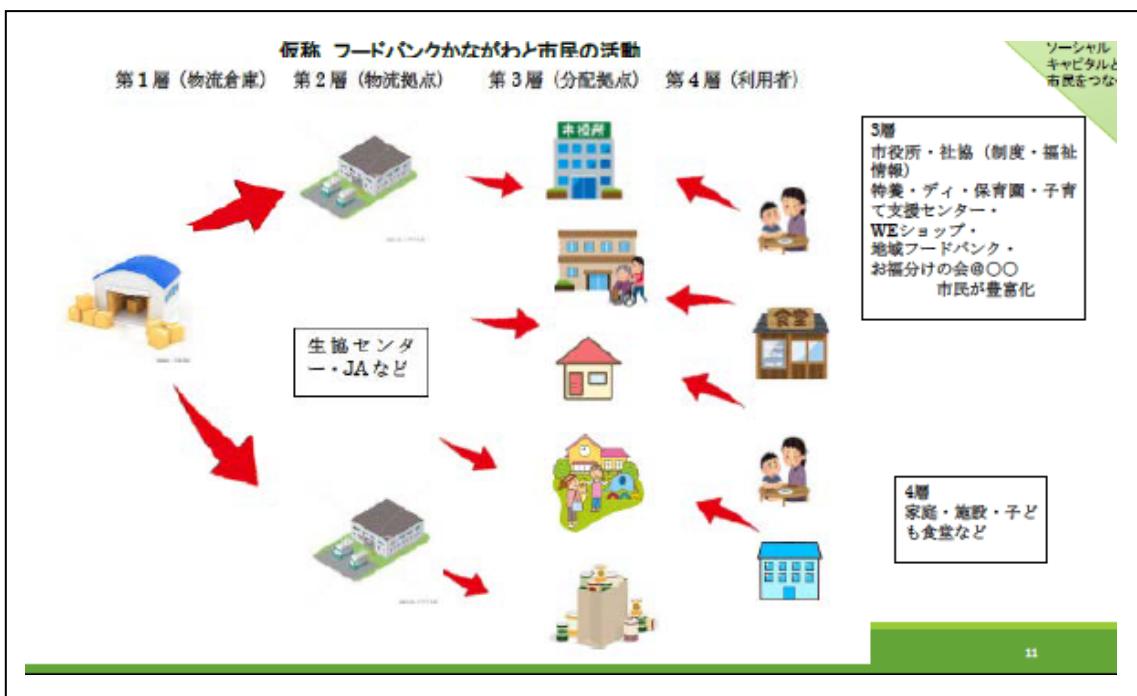
- ①生活困窮・社会的弱者といわれる人々の食のセーフティネット
- ②フードバンクを通してたすけあい・ささえあい社会をめざす
- ③食品ロス削減、食べ物の価値を活かす

・マイクロクレジット＆フードバンク研究会（2015年）
⇒仮称フードバンクかながわ設立検討会（2016年）
⇒仮称フードバンクかながわ設立準備会（2017年）
⇒2018年設立予定

かねがわ生き活き市民基金

施設、保育園とか地域のフードバンクに物が届けられて、そこで分配をします。4層が利用するかたがたですね。それで、私たちはどこをやるのかというと、一つは地域の分配拠点になります。行政が捉えている生活保護受給世帯の周辺のグレーゾーンには、さまざまな方がいらっしゃいますが、それが一番分かるのは地域の保育園とか、社協さん

とか、フードバンクのかたがたです。もう一つは周辺でのフードドライブの活動です。フードドライブは、ご自宅にある、消費期限があと2ヶ月ぐらい残っているような食品を、生協の店舗やデポー、センター、市役所とか、イベント会場に、みんなが1個1個持ち寄つて、それを分配する活動です。常温品とお米を、その対象にしたいと思っています。フー



ドドライブをする、それから分配拠点となって配達のお手伝いをする。分配のお手伝いは、私たち誰でもできると思いますので、ぜひ、参加をお願いいたします。

●「お福分けの会」の実践紹介

☆お福分けの会 まんまさくらんば

認可保育園さくらんぼ・親子のひろばまんま・児童家庭支援センターういす・地域子育て支援拠点にこてらす

月3回家庭別に仕分けした食料を配布。
口コミで85家庭に拡大。シングルが多い、18歳未満の子どもがいる

モットーは①不平等の平等（互いの違いを分かり合って分かち合う）②家族に合わせた商品のチョイス③上げる：もううだけない関係④食料支援はスピードが勝負
仕分けボランティアへの当事者参加・配達ボランティア・提供基の開発(特に日配品)

前回の第3回にあたる

お福分けの会@○○を地域に増やしたい点
在させる伴走者とする

まんまさくらんば 生き活き市民基金



キャビ
市民会

その分配拠点での実践例です。「お福分けの会」、主催は「まんまさくらんば」です。まんま代表の金子さんに、お話を聞いてきました。写真のように、箱に分配しているわけですが、瀬谷区のNPO法人まんまでは、親子のつどいの広場を利用される親御さんの中に、生活の苦しい人が多くて、食料支援を始められたそうです。そしたら、非常に有効であることが分かり、現在、子育て支援拠点の4カ所で、85世帯分の食料を、月3回、分けています。シングルマザーの方が、多いとおっしゃっていました。東京の大手のフードバンクや、町のパン屋さん、おてらおやつクラブという所から、提供を受けています。これから、生活クラブのパン製造のオルタフーズもその輪に加わることになっています。この活動のいいところは、分ける作業に利用者の方も加わっていることです。私分ける人、あなた食べる人

ではなくて。お互いの違いを分かり合って、分かち合う。あげるとか、もううだけの関係ではない、新しい関係づくりを目指しているところが、いいなと思っています。宅配もしますので、宅配ボランティア、フードバンク

やオルタフーズに取りに行く、配達ボランティアも募集しています。

●政策提言活動

政策提言は、中間支援組織の重要な役割であると言われていますが、政策提言には、ヒト、モノ、力がかかるんですよね。私たち、自分たちでは、なかなか難しいのですが、政策提案を行う市民活動の支援をしています。この12月から、川崎地域エネルギー市民協議会が、川崎再生エネルギー推進条例制定活動をやります。その活動費を一緒に集めましょうと言っています。助成活動を通じて、地域活動の相談もつないので、地域で活動を進められているみなさんが、何か考えられていることがあったら、一緒に考えていきたいと思います。（了）